



ショートコメント

★★★★

Data 2024-83

## ラブ・アクチュアリー 4K デジタルリマスター

2003 年／イギリス・アメリカ・フランス映画

配給：シンカSYNCA／135 分

2024（令和 6）年 12 月 14 日鑑賞

テアトル梅田

監督・脚本：リチャード・カーティス

出演：ヒュー・グラント／リ

ーアム・ニーソン／コ

リン・ファース／ロー

ラ・リニー／エマ・ト

ンブソン／アラン・リ

ックマン／キーラ・ナ

イトレイ／ビル・ナイ

### 👁️👁️ みどころ

20 年前の“至福のラブストーリー”が、4K デジタルリマスター版で復活！クリスマスに向けて 10 組 19 人の登場人物たちが、“グランドホテル形式”で織りなす様々な愛の物語は複雑そうだが、本当は単純！だって、その結末はハッピーエンドに決まっているのだから！

それは“約束ごと”としてはいいのだが、若き英国首相と秘書との恋物語が、米国大統領との首脳会談や共同記者会見に影響する姿は、トランプ第二期政権の登場が迫っている今、さすがに如何なもの・・・？

その他、20 年前は気楽に楽しめた本作を、第三次世界大戦まで心配されているキナ臭い国際情勢の昨今、額面通りに楽しめるかどうかはさて如何に？

—— \* —— \* —— \* —— \* —— \* —— \* —— \* —— \* —— \* —— \*

◆20 年前に私が見逃していた“至福のラブストーリー”が 4K デジタルリマスター版として復活。本作は 10 組 19 人の登場人物による 10 通りの物語が同時並行で進行する、いわゆる“グランドホテル形式”を採用しているが、そのテーマはクリスマス。

「クリスマスまで 5 週間」から始まる合計 10 の物語の主人公は、チラシに次頁の俳優 10 人だが、それぞれのキャラは？そして、それぞれの恋の物語とは？

◆イギリスにはクリスマスを描いた名作が多い。その代表は、チャールズ・ディケンズの小説『クリスマス・キャロル』（1843 年）だが、本作はリチャード・カーティス監督のオリジナル脚本に基づく、クリスマスを主題にしたロマンチックコメディだ。

冒頭の舞台は、ロンドンのヒースロー空港。「空港」といえば、テレサテンの名曲「空港」（74 年）があり、そこでは悲しい男女の別れがテーマにされていたが、本作冒頭に登場するヒースロー空港ではさまざまな男女、家族のさまざまな愛の姿が感動的な歌とともに登場する。もちろんそれは、ヒースロー空港だけの固有の姿ではないが、“クリスマスまで 5 週間”ともなれば、クリスマスに向けて、片思い、秘めた愛、恋の喪失、一途な想い、不

貞への淡い期待、壁を乗り越える愛、そして偶然にして運命の出会い等々、さまざまな愛の形が展開していくので、やっぱりヒースロー空港が一番！？

◆ “クリスマスまで5週間” の時点から始まり、「クリスマスまで4週間」「3週間」「2週間」「1週間」と迫っていく中で、10人の主人公、19人の登場人物たちが織りなす愛の物語は次のように実に様々なものだ。

①落ちぶれたロック歌

手のビリー・マック

(ビル・ナイ) は、マ

ネージャーのジョー

(グレゴール・フィッ

シャー) と共に再起を

賭け、往年のヒット曲

の歌詞を変えてリリ

ースを目論む。

②妻を亡くしたばかり

のダニエル (リーア

ム・ニーソン) は、そ

の悲しみが癒えず、友

人のカレン (エマ・ト

ンプソン) の助けを求

めている。

③ジョン (マーティン・

フリーマン) とジュディ (ジョアンナ・ペイジ) は、映画撮影現場でセックスシーンの

のスタンドインとして働いている。

④若くしてイギリス首相になったデヴィッド (ヒュー・グラント) は、恋の噂も無い独

身生活を送っているが、首相公邸のスタッフ、ナタリー (マルティン・マカッチョン)

に一目惚れする。

⑤ピーター (キウエテル・イジヨフォー) はジュリエット (キーラ・ナイトレイ) と結

婚式を挙げ、ピーターの親友でベストマンを務めたマーク (アンドリュー・リンカーン)

は、『愛こそはすべて』のサプライズ演奏をふたりに贈る。

⑥この式とパーティの合間にフラットへ戻ったジェイミー (コリン・ファース) は、ガ

ールフレンド (シエンナ・ギロリー) が自分の弟と浮気している現場に踏み入ってし

まう。

⑦パーティスタッフとして働くコリン (クリス・マーシャル) は、自分がモテないのは



相手が英国女性だからと独り合点し、アメリカに行って女の子を引っ掛ける夢を友人のトニー（アブダル・サリス）に語る。

- ⑧パーティ会場では、マーク（アンドリュース・リンカーン）が浮かない顔でビデオを回し続けており、彼がピーターに恋をしていると勘違いしたサラ（ローラ・リニー）は、話せば楽になるとマークに話しかける。

これらの物語に登場する人物は、いずれもイギリスを代表する有名な俳優たちだから、あまり混乱しないでスピーディな展開についていくことができる。しかも素晴らしいのは、その展開の盛り上げに大きく寄与するのが、ビートルズの『愛こそはすべて』（67年）等の名曲の数々だからそれに注目！

◆2024年11月のアメリカ大統領選挙は大波乱の中、トランプ氏が劇的な大勝利を収めた。その結果、世界中が2025年1月20日の就任式に先駆けて、トランプ就任に向けた大騒動になっている。しかし、20年前の本作では、若くしてイギリスの首相に就任したデヴィッドは、登場早々、厳しい職務よりも若くてちょっと太め（？）の秘書ナタリーに興味を示しているから、アレレ。さらに、決定的に大切な米国大統領（ビルリー・ボブ・ソートン）との首脳会談でもナタリー絡みの一悶着（？）後の共同記者会見でデヴィッドが見せた対応は？本作は20年前のロマンチックコメディだから、こんなものでも許されたようだが、諸情勢厳しき昨今、英国首相がアメリカ大統領にこんな対応をすれば、即アウト！？

◆そもそも、多くの人物を登場させる“グランドホテル形式”で、多くの物語を描く以上、ややこしいストーリーは禁物。それぞれの物語にちょっとしたヒネリを効かせて、それぞれを効果的にハッピーエンドで結びつけた上、グランドフィナーレを迎えるよう全体構成をすることが大切だ。いつもそんなスタイルで1時間前後の舞台を成功させているのが宝塚大劇場で上演される「宝塚歌劇」だが、雑踏のヒースロー空港での出迎えの姿から始まる本作が想定すべきフィナーレは如何に？そこでは10組19人の登場人物によるさまざまな恋物語が、それぞれハッピーエンドで終わることが不可欠だ。そのことが最初から“予定調和”とされている本作は、何と言っても気楽に鑑賞できるのがいい。そんな風に気楽に鑑賞した。本作についての私の評論も以上の通りの気楽なもので十分だろう。

2024（令和6）年12月16日記